

教科書ページ		項目 (◎ 学習課題)	目標
第1部 現代社会			
第1章 現代社会と私たち		■章の問い■ よりよい社会生活を営むために、私たちはどのようなことを大切にしていけばよいのだろうか。 (計10時間)	位置や空間的な広がり、推移や変化などや、対立と合意、効率と公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化などがみられることや、現代社会における文化の意義や影響について理解できる。 (2)現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解できる。 (3)情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響、文化の継承と創造の意義などについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4)社会生活におけるものごとの決定のしかた、きまりを通した個人と社会の関係、きまりの役割について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (5)現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みを働かせて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第1節 現代社会の特色		◇節の問い◇ 私たちはどのように社会の変化に対応していけばよいのだろうか。	(1)情報化、グローバル化、少子高齢化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、位置や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (2)p. 11「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の1節の表に自分の考えをまとめることができる。
2 3	* 学習の前に 45年前と今の社会を比べてみよう		45年前と今の「二度見駅」周辺のまち並みを比べて、情報化、グローバル化、少子高齢化などが確認できる場面を探し、45年間で社会がどのように変化したかを表にまとめることができる。

1 学 期	4 5	1 私たちと持続可能な社会 ◎持続可能な社会の実現に向けて、私たちはどのようなことを大切にしていけばよいのだろうか。	(1)持続可能な社会とは、将来の世代のニーズを満たすようにしながら、現在の世代のニーズを満たすような社会を意味していることを理解できる。 (2)持続可能な社会を実現するために必要なことを考察できる。
	6 7	2 情報化が進む現代 ◎情報化の進展は、私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。	(1)現代社会の特色として、情報化がみられることを理解できる。 (2)情報化が今後の社会に与える影響を考察できる。
	8 9	3 グローバル化が進む現代 ◎グローバル化の進展は、私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。	(1)現代社会の特色として、グローバル化がみられることを理解できる。 (2)グローバル化が今後の社会に与える影響を考察できる。
	10 11 1	4 少子高齢化が進む現代 ◎少子高齢化の進展は、私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。	(1)現代日本の社会の特色として、少子高齢化がみられることを理解できる。 (2)少子高齢化が今後の社会に与える影響を考察できる。
第2節 私たちの生活と文化 ◇節の問い◇ 私たちはどのように文化と関わっていけばよいのだろうか。			(1)現代社会における文化の意義や影響を理解できるとともに、文化の継承と創造の意義について、位置や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (2)p. 15「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の2節の表に自分の考えをまとめることができる。
1 学	1 2 1 3	1 生活に息づく文化 ◎文化は私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。	(1)文化が私たちの生活や人生に与える影響を理解できる。 (2)異文化理解が求められている理由を考察し、表現できる。

期 1 4 1 5	2 日本の文化とその継承 ◎日本の文化はどのような特徴があるのだろうか。		(1)日本の文化の特色を考察し、表現できる。 (2)日本の伝統文化の継承について、自分の生活する地域との関わりから主体的に取り組むことができる。
	第3節 現代社会をとらえる枠組み ◇節の問い◇ 私たちはどのように現代社会をとらえればよいのだろうか。		(1)現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解できる。また、人間は本来社会的存在であることをもとに、個人の尊厳と両性の本質的平等、きまりの重要性やそれを守ることの意義および個人の責任について理解できる。 (2)社会生活における物事の決定のしかた、きまりを通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。 (3)現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 (4)p. 21「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の3節の表に自分の考えをまとめることができる。
	1 6 1 7	1 社会的存在として生きる私たち ◎私たちが生きていくうえで意見が対立した場合、どのように解決すればよいのだろうか。	(1)家族、学校、地域社会といったさまざまな集団を形成し、集団に所属して生活していることについて、「社会集団」をキーワードに説明できる。 (2)人はそれぞれの考え方や利害を持っているため、対立が起こることがあることを理解し、「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例を通して、合意に至る過程を試行できる。
	1 8 1 9	2 効率と公正 ◎よりよい合意をつくるために、私たちはどのような見方・考え方を踏まえる必要があるのだろうか。	(1)話し合いを行って導いた合意について、よりよい合意をつくるためにどのような考え方が必要かを考察し、表現できる。 (2)合意を練り上げ、よりよい合意をつくるために、「効率」や「公正」といった見方・考え方があることを理解し、こうした見方・考え方を反映した合意案を作成できる。
2 学 期	2 0 2 1	3 私たちときまり ◎私たちはどのようにきまりと関わっていけばよいのだろうか。	(1)きまりがつくられる過程や、きまり（「契約」）を守る意義を理解できる。 (2)「契約」を通した個人と社会との関係やきまりの役割について考えることができる。

2 2 2 3	* アクティビティに挑戦 マンションの騒音問題を解決しよう どうすればみんなが納得できる合意をつくることができるだろうか。	(1)マンションの騒音問題を解決するために、効率と公正などの見方・考え方を働かせて議論し、解決策を提案・検討できる。
2 4 2 6	* 学習を振り返ろう 第1部 第1章 現代社会と私たち ■章の問い■ よりよい社会生活を営むために、私たちはどのようなことを大切にしていけばよいのだろうか。	(1)「学習の前に」の2枚のイラストから、45年間で変化した場面を見つけ、Yチャートを用いて、情報化、グローバル化、少子高齢化に分類することができる。 (2)現代社会にみられる具体的な事象をクラゲチャートに書き出し、それをまとめるようなキャッチフレーズを考えることができる。 (3)よりよい社会生活を営むために、私たちはどのようなことを大切にしていかなければならないのかについて、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、周りの人と意見交換をしながら、考えをまとめることができる。
第2部 政治		
	第1章 日本国憲法と私たち ■章の問い■ 民主的な社会をつくるために、私たちはどのように憲法をとらえ、考えていくべきなのだろうか。 〈計20時間〉	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解できる。また、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていること、日本国および日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解できる。 (2)日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現できる。 (3)個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
	第1節 民主主義と日本国憲法 ◇節の問い◇ 民主社会では、なぜ法に基づく政治が大切なのだろうか。	(1)小学校社会科の学習との円滑な接続を図り、法に基づく政治の大切さについて、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (2)p. 41「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の1節の表に自分の考えをまとめることができる。

2 学 期	3 0 3 1	* 学習の前に 暮らしのなかから憲法との 関わりを探してみよう	「さくら野商店街」周辺のまち並みのさまざまな場面から、私たちの暮らしが日本国憲法の三大原理と関わっている場面を確認するとともに、人々の暮らしの場面から、困っている人や課題がある場面を見つけ出して表にまとめることができる。
	3 2 3 3	1 民主主義と立憲主義 ◎立憲主義とはどのような しくみで、それを実現してい くためにはどのような取り 組みが必要なのだろうか。	(1)国家権力とは何かを理解できる。 (2)国家権力をよりよく正しく使うために重要な民主主義や立憲主義の考え方について説明できる。
	3 4 3 5	2 人権保障と法の支配 ◎人権保障は、どのような 歴史過程をたどりながら実 現してきたのだろうか。	(1)人権の保障がどのような歴史過程をたどって実現してきたのかについて、諸資料の読み取りを通して理解できる。 (2)法の支配を実現するために必要なことについて説明できる。
	3 6 3 7	3 日本国憲法の成立と特 色 ◎日本国憲法にはどのよ うな特色があるのだろう か。	(1)大日本帝国憲法と日本国憲法の違いから、日本国憲法の特色を理解できる。 (2)日本国憲法の成立過程を、大日本帝国憲法と日本国憲法の人権に対する考え方の比較や、帝国議会の成立過程への関わりなどから考察できる。
	3 8 3 9	4 日本国憲法における国 民主権 ◎国民が主権をもつとはど のようなことなのだろうか。	(1)国民が主権をもつという考え方や、国民主権の具現化の方法について理解できる。 (2)日本国憲法で国民主権が定められていることの意義を説明できる。
	4 0 4 1	5 日本の平和主義 ◎日本国憲法では、平和 主義をどのように定めてい るのだろうか。	(1)日本国憲法が定める平和主義の考え方について理解できる。 (2)日本国憲法が平和主義をどのように定め、日本が平和主義を守るために行っていることについて説明できる。

4 2 4 3	* アクティビティに挑戦 民主主義のあり方を考えよう 多数決のあり方や民主主義を考えるうえで大切なことは何だろうか。	(1)効率と公正などの見方・考え方を働かせて、身近な事例から多数決の効果的な活用方法について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (2)民主主義を実現するうえで必要なことについて、周りの人とともに自分の考えを深めることができる。
第2節 基本的人権の尊重 ◇節の問い◇ 日本国憲法では、なぜ基本的人権が保障されているのだろうか。		(1)基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方を理解できるとともに、日本国憲法で基本的人権が保障されていることの意義について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (2)p. 63「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の2節の表に自分の考えをまとめることができる。
4 4 4 5	1 個人の尊重と憲法上の権利 ◎日本国憲法では、基本的人権の尊重をどのように保障しているのだろうか。	(1)基本的人権は、個人の尊重と法の下での平等をはじめとする平等権を基礎としていることを理解できる。 (2)個人の尊重は基本的人権の根本であり、憲法上の権利保障の出発点となる規範であることを考察できる。
4 6 4 7	2 自由権 ◎日本国憲法では、自由権をどのように保障しているのだろうか。	(1)自由権は、国家から不当に強制や命令をされない権利であることを理解できる。 (2)「生命・身体の自由」について、多くの条文が設けられている理由を考察できる。
4 8 4 9	3 平等権と差別されない権利 ◎日本国憲法では、平等権をどのように保障しているのだろうか。	(1)平等権の意味を理解できる。 (2)ジェンダー不平等やLGBTQ+に対する差別の解消に向けて法律や制度の整備が進んでいることを踏まえて、性差を超えた平等のあり方について考察できる。
5 0 5 1	4 平等権の実現に向けて ◎平等権を実現するために、どのような取り組みが求められているのだろうか。	(1)日本社会には、民族や国籍、病気や障がいなどによるさまざまな差別があることを理解できる。 (2)不平等や差別をなくすために自分たちにできることを考え、表現できる。
5 4 5 5	5 社会権 ◎日本国憲法では、社会権をどのように保障しているのだろうか。	(1)社会権として、どのような権利が保障されているか理解できる。 (2)社会権が生まれた背景から、社会権の意義を考察し、表現できる。

2 学 期	5 6 5 7	6 人権を守るための権利と制度 ◎人権を守るために、日本国憲法ではどのような権利を保障しているのだろうか。	(1)日本国憲法では人権を守るための権利として、参政権や国務請求権が保障されていることを理解できる。 (2)子どもの人権を守るための法律や制度が整備されていることを踏まえ、虐待、大人からの暴力、いじめ、ヤングケアラーなどの問題から子どもを守るために必要なことを考えることができる。
	5 8 5 9	7 広がる人権の考え方 ◎社会の変化に伴って、どのような人権の保障が求められているのだろうか。	(1)社会の変化に伴い、新しい人権が主張されるようになってきたことを理解できる。 (2)憲法に直接定められていない人権が認められ、新しい人権が広がってきた背景を考察できる。
	6 0 6 1	8 情報社会と人権 ◎情報化が進んだ社会において、どのような人権の保障が求められているのだろうか。	(1)情報化の進展に伴い、新しい人権が必要とされるようになってきている現状を理解できる。 (2)情報社会で起きている人権侵害に対して、どのような人権の保障が求められているかを考えることができる。
	6 2 6 3	9 公共の福祉と国民の義務 ◎日本国憲法では、基本的人権の尊重が保障されているが、どのようなときに人権は制限されるのだろうか。	(1)公共の福祉の実現のために、国家が人権を制限する場合がある理由を考察できる。 (2)日本国憲法には三つの国民の義務が定められていることを理解できる。
	6 4 6 5	*アクティビティに挑戦 青果店の立ちのきについて考えよう 道路拡張をめぐる権利の対立について、効率や公正の見方・考え方を働かせると、どのような解決方法が考えられるだろうか。	(1)青果店の立ち退きについて、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、対立から合意に至る方法を多面的・多角的に考察し、自分の立場を明確にして考えを表現できる。
第3節 法の支配を支えるしくみ ◇節の問い◇ 日本国憲法では、なぜ国の統治について規定しているのだろうか。			(1)日本では日本国憲法が最高法規であり、日本国憲法に基づく政治によって、国民の自由と権利が守られていることを理解できる。 (2)p. 69「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の3節の表に自分の考えをまとめることができる。

2 学 期	6 6 6 7	1 権力の分立 ◎立法、行政、司法の三権は、どのようなしくみで抑制し合い、均衡をとっているのだろうか。	(1)権力の濫用を防ぐため、立法・行政・司法の間で抑制と均衡がとられていることを理解できる。 (2)国家権力の行使にあたり、その権限が憲法で制約されている理由を考察できる。
	6 8 6 9	2 憲法の保障・改正と私たち ◎日本国憲法では、憲法の保障と改正についてどのように定めているのだろうか。	(1)憲法保障の意味を理解し、憲法改正の手續のしくみを理解できる。 (2)違憲審査の制度における最高裁判所の役割を考察できる。
	7 0 7 2	* 学習を振り返ろう 第2部 第1章 日本国憲法と私たち ■章の問い■ 民主的な社会をつくるために、私たちはどのように憲法をとらえ、考えていくべきなのだろうか。	(1)「学習の前に」のイラストから、困っている人や課題がある場面と、権利が保障されている場面を見つけ、その具体的な内容を表にまとめ、関係する日本国憲法の条文と結びつけることができる。 (2)私たちにとって、憲法とはどのような存在であるかを考え、表現できる。 (3)民主的な社会をつくるために私たちがしなければならないことについて、対立と合意、効率と公正、個人の尊厳と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、周りの人と意見交換しながら、考えをまとめることができる。
第2章 政治と私たち ■章の問い■ 民主主義の担い手として、私たちはどのように政治に関わっていけばよいのだろうか。 〈計30時間〉		対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解できる。 (2)民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (3)民主政治と政治参加について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
第1節 民主政治と私たち ◇節の問い◇ 民主政治を実現させるために、どのような政治への関わり方が大切だろうか。		(1)個人を尊重し、基本的人権を守る政治を実現するためには、公正な世論の形成や選挙など、国民の政治参加と国民の意思を国政や地方の政治に十分反映させることが必要であることを理解できる。 (2)p. 83「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の1節の表に自分の考えをまとめることができる。	

2 学 期	7 4 7 5	* 学習の前に みんなが暮らしやすい社 会をつくろう	(1)「はるの市」の市長選挙への投票を通して、二人の候補者の主張に対して、自分が選んだ住民の立場からどちらの主張に賛同するかを理由とともに考え、周りの人と意見交換をすることができる。 (2)二人の候補者の主張に対して、自分自身はどちらの主張に賛同するかを理由とともに考えることができる。
	7 6 7 7	1 民主主義と政治 ◎一人ひとりの意思が反 映される政治とは、どのよ うなものだろうか。	(1)政治は私たちの願いや利害の対立を調整し、社会全体の利益を増進するために行われていることを理解できる。 (2)間接民主制のしくみを理解し、議会制民主主義の意義について考察できる。
	7 8 7 9	2 世論とメディア ◎政治において、メディア は私たちとどのように関 わっているのだろうか。	(1)民主政治を行うためには、公正な世論の形成が必要であることを理解できる。 (2)国民一人ひとりが、メディアリテラシーを身につけることが必要な理由を考察できる。
	8 0 8 1	3 政党の役割 ◎政治において、政党はど のような役割を果たしてい るのだろうか。	(1)政党の役割を理解し、国民の選挙を通じて与党が選択されていることを理解できる。 (2)民主政治の下では、一人ひとりの意見を尊重するために複数の政党があったほうがよい理由を考察できる。
	8 2 8 3	4 選挙制度とその課題 ◎国の政治において、なぜ さまざまな選挙制度で選挙 が行われているのだろう か。	(1)普通選挙の原則を理解し、選挙は議会制民主主義を支える根本の制度であることを理解できる。 (2)日本の選挙制度のしくみを理解し、日本の選挙制度の課題を考察できる。
第2節 国の政治のしくみ ◇節の問い◇ よりよい政治の ために、国会、内閣、裁判所には どのような役割が求められるの だろうか。		(1)国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割、法に基づく公正な裁判の保障について理解できる。 (2)p. 97「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の2節の表に自分の考えをまとめることができる。	

2 学 期	8 6 8 7	1 国会の役割としくみ ◎国会はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのだろうか。	(1)国会は、国権の最高機関であり、唯一の立法機関であることを踏まえ、国会の主な仕事を理解できる。 (2)衆議院と参議院の違いを理解し、衆議院の優越が認められている理由を考察できる。
	8 8 8 9	2 国会の審議と課題 ◎国会の審議は、どのような行われているのだろうか。	(1)国会の種類と審議のルールを理解し、法律案が法律になるまでの過程を理解できる。 (2)国民の意思を反映させるという観点から、国会審議における課題を考察できる。
	9 0 9 1	3 内閣の役割と議院内閣制 ◎国民の要望を実現するために、内閣はどのような役割を果たしているのだろうか。	(1)内閣の役割を理解し、内閣は国の政治に関して幅広い権限をもっていることを理解できる。 (2)議院内閣制の特徴を、国会と内閣の関係から考察できる。
	9 2 9 3	4 行政の役割と課題 ◎現在の行政はどのような課題を抱えているのだろうか。	(1)現代の国家では行政の役割が大きくなっており、行政権の拡大が見られることを理解できる。 (2)行政改革や規制緩和が進められている理由を、行政権の拡大に着目して考察できる。
	9 4 9 5	5 私たちの生活と裁判 ◎裁判はどのような働きで私たちの権利を保障しているのだろうか。	(1)民事裁判と刑事裁判の違いや三審制のしくみと課題について理解できる。 (2)三審制がとられている理由と、司法権の独立が保障されている理由を考察できる。
	9 6 9 7	6 法の支配と司法 ◎法の支配を実現するために、司法はどのような役割を果たしているのだろうか。	(1)刑事裁判では、どのような権利が保障されているかを理解できる。 (2)裁判員制度のしくみを理解し、裁判員制度が導入された理由とその課題を考察できる。
	9 8 9 9	* アクティビティに挑戦 裁判員として裁判の判決を考えよう 私たちが裁判員に選ばれた場合、どのように判決を考えたらよいのだろうか。	(1)実際に起きた刑事事件の事例をもとにして、適切な資料を用いて多面的・多角的に考察し、裁判員として自分なりの判決を考え、表現することができる。

第3節 地方自治と私たち			(1)地方自治の基本的な考え方について理解できる。 (2)地方自治を発展させるために、私たちはどのように地方の政治に参加すべきかについて、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (2)p. 107「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の3節の表に自分の考えをまとめることができる。
2 学 期	10 0 10 1	1 地方自治と地方公共団体 ◎国の政治と比べて、地方の政治にはどのような特徴があるのだろうか。	(1)地方公共団体の仕事を理解し、地方分権が進められている理由を理解できる。 (2)地方自治が「民主主義の学校」とよばれる理由を考察できる。
	10 2 10 3	2 地方公共団体のしくみと住民参加 ◎私たちが住む地方公共団体は、どのようなしくみで仕事を行っているのだろうか。	(1)地方公共団体のしくみの特色を、住民と地方議会の議員・首長との関係から理解できる。 (2)地方の政治では、直接民主制が幅広く認められている理由を考察できる。
	10 4 10 5	3 地方財政の現状と課題 ◎地方公共団体の財政はどのような状況になっており、またどのような課題があるのだろうか。	(1)地方公共団体の歳出と歳入の特徴を理解できる。 (2)地方公共団体の借金が増加傾向にある理由とその問題点を考察できる。
	10 6 10 7	4 私たちと政治参加 ◎私たちは、どのような方法で政治に参加することができるのだろうか。	(1)年代別の投票率の特徴を踏まえ、若者の投票率が低い現状とその理由を理解できる。 (2)若者の投票率が低いことの問題点に気づき、若者が政治参加することの意義を考察できる。
	10 8 10 9	* アクティビティに挑戦 自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう 自分が住むまちをよりよくするために、どのような予算案を組めばよいのだろうか。	(1)自分たちが住むまちをよりよくするための話し合いで出た意見を、効率と公正などの見方・考え方を働かせて選択・判断して、その実現のための予算案を多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。

110112	* 学習を振り返ろう 第2部 第2章 政治と私たち ■章の問い■ 民主主義の担い手として、私たちはどのように政治に関わっていけばよいのだろうか。	(1)「学習の前に」のイラストから、「はるの市」の市長選で、どちらの候補者に賛同するか、自分の考えを表にまとめ、どの候補者に投票するかを決めることができる。 (2)民主主義の担い手として、政治にどのように関わっていけばよいかについて、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、周りの人と意見交換しながら、考えをまとめることができる。
第3部 経済		
第1章 経済活動と私たち ■章の問い■ 私たちの社会を豊かにするために、経済にはどのような働きがあるのだろうか。〈計30時間〉	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)身近な消費生活を中心に経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などのしくみや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の精神について理解できる。 (2)社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、財政および租税の意義、国民の納税の義務について理解できる。 (3)個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4)市場の働きに委ねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体が果たす役割、財政および租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (5)市場の働きと経済、国民の生活と政府の役割について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
第1節 経済のしくみと消費 ◇節の問い◇ 私たちの社会を豊かにするために、家計にはどのような役割があるのだろうか。	(1)身近な消費活動を中心に、経済活動の意義を理解できるとともに、分業と交換、希少性などの見方・考え方を働かせて経済の基本的な考え方について理解できる。 (2)経済活動を活発にしていくための消費者の役割と責任を理解できるとともに、消費者の保護など消費者をめぐる問題について、政府の取り組みなどを理解できる。 (3)p. 127「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の1節の表に自分の考えをまとめることができる。	

2 学 期	11 6 11 7	* 学習の前に 暮らしのなかから経済を探 してみよう	(1)「若木地区」の商店街の様子から、さまざまな経済活動が行われていることを読み取って表にまとめることで、私たちの暮らしは経済活動によって成り立っていることを理解できる。 (2)イラストから交換が行われている場面を探し、生産と交換のしくみについて主体的に考えようとするができる。
	11 8 11 9	1 経済活動のしくみ ◎私たちの生活のなかで、 経済活動はどのような役 割を果たしているのだろ うか。	(1)生産と消費を中心とする経済活動の役割について考察できる。 (2)分業と交換により、経済活動が行われていることを理解できる。 (3)経済活動における選択と資源の効率的な配分について、希少性に着目して考察できる。
	12 0 12 1	* アクティビティに挑戦 もしも無人島に漂着した ら？ 分業と交換とはどのよう なしくみなのだろうか。	(1)無人島での生活を考えることで、分業と交換といった経済のしくみがどのように成り立ってきたのかを考察できる。
	12 2 12 3	2 家計と消費 ◎経済のなかで、家計に はどのような収入と支出が あるのだろうか。	(1)経済のなかで、家計が果たす役割を理解できる。 (2)家計の支出における選択について、希少性などの見方・考え方を働かせて考えることができる。
	12 4 12 5	3 変化する消費と流通 ◎企業が生産した商品は、 どのようにして私たちの手 もとに届けられているのだ ろうか。	(1)流通のしくみと役割を理解し、流通の合理化や販売形態の多様化について資料から読み取ることができる。 (2)消費者として、広告や企業の情報利用について注意しなければならない理由を考えることができる。
	12 6 12 7	4 契約と消費者問題 ◎私たち消費者の権利 は、政府によってどのよ うに支えられているのだろ うか。	(1)「契約」の意味を理解し、政府が消費者保護を行っている理由を考察できる。 (2)経済活動における消費者の権利と責任について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。

2 学 期	13 0 13 1	* アクティビティに挑戦 一人暮らしにはお金がいくらかかる？ 希少性の見方・考え方を踏まえたうえで、消費と選択についてどのように考えればよいのだろうか。	一人暮らしをするうえで必要な消費について、希少性などの見方・考え方を働かせて、重視する選択の基準を設定することができる。
	第2節 企業と生産 ◇節の問い◇ 私たちの社会を豊かにするために、企業にはどのような役割があるのだろうか。		(1)経済を活発にしていくための企業の役割と責任について考えることができる。その際、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の問題と関連づけて考えることができる。 (2)p. 143「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の2節の表に自分の考えをまとめることができる。
	13 2 13 3	1 私たちの生活と企業 ◎企業は経済活動においてどのような目的で活動し、どのような役割を果たしているのだろうか。	(1)経済活動における企業の役割を理解し、企業活動の目的を考えることができる。 (2)企業と私たちのつながりについて、分業と交換などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、表現できる。
	13 4 13 5	2 企業の種類と株式会社 ◎企業の活動はどのようなしくみで行われているのだろうか。	(1)企業の種類や株式会社のしくみを理解できる。 (2)日本経済における中小企業やベンチャー企業の役割について、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	13 6 13 7	3 企業の競争と独占 ◎企業の競争は、私たちの生活にどのような影響をもたらしているのだろうか。	(1)企業の競争が私たちの生活にもたらす影響や、公正な競争が行われるために行政機関が果たす役割を理解できる。 (2)企業が競争を通して発展していくことを理解し、独占や寡占がもたらす弊害について考察し、表現できる。
	13 8 13 9	4 働くことの意義と労働者の権利 ◎私たちがよりよい生活を実現するために、労働者の権利は法律によってどのように保障されているのだろうか。	(1)働くことの意義について考え、労働者の権利が保障されている理由を理解できる。 (2)働く機会の提供をめぐる諸問題の背景と対応策を考察し、表現できる。

2 学 期	14 0 14 1	5 労働環境の変化と私たち ◎日本の労働環境は、どのように変化してきたのだろうか。	(1)日本の労働環境の変化がもたらした問題とその改善方法について理解できる。 (2)企業と労働者の双方にとって、適切な労働環境とは何かを考えることができる。
	14 2 14 3	6 企業の社会的責任 ◎現代の社会において、企業にはどのような責任が求められているのだろうか。	(1)現代の社会において、企業に求められている社会的責任（CSR）について理解できる。 (2)企業が社会的責任を果たすことが求められている理由を、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	14 4 14 5	*アクティビティに挑戦 パン屋さんを起業してみよう 起業するためには、どのように開業資金を集め、利益を出していけばよいのだろうか。	(1)パン屋さんを起業するにあたって、開業に必要な資金や利益について考え、開業資金を得るために作成した企画書を改善できる。
	第3節 市場経済と金融のしくみ ◇節の問い◇ 私たちの社会を豊かにするために、金融にはどのような役割があるのだろうか。		(1)市場経済ではモノやサービスの取り引きが貨幣を通して行われていることを理解できるとともに、近年ではデジタル通貨という新しい金融サービスを提供する動きがあることを理解できる。 (2)市場価格にはさまざまな決まり方があることを踏まえ、価格が決まるのしくみについて考察できる。 (3)金融の役割や日本銀行の役割について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 (4)p. 153「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の3節の表に自分の考えをまとめることができる。
2 学 期	14 6 14 7	1 市場経済と価格の働き ◎市場経済とは、どのようなしくみで成り立っているのだろうか。	(1)市場経済は価格により需要と供給のバランスが保たれ、効率性が高まる経済であることを理解できる。 (2)市場価格決定のしくみについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	14 8 14 9	2 お金の役割 ◎お金は、経済活動においてどのような役割を果たしているのだろうか。	(1)経済活動における貨幣の役割について理解できる。 (2)現金通貨と預金通貨という貨幣に加えて、電子マネーや暗号資産などのデジタル通貨が身近な存在になっていることを踏まえ、それぞれの特徴を考えることができる。
	15 0 15 1	3 金融のしくみと働き ◎銀行などの金融機関は、私たちの生活においてどのような役割を果たしているのだろうか。	(1)直接金融と間接金融の違いを明確にして、金融機関の役割を理解できる。 (2)金融の新しい動きに関する情報を収集し、その動きが社会に与える影響や課題について考察できる。

3 学 期	15 2 15 3	4 日本銀行と金融政策 ◎日本銀行は日本経済のなかでどのような役割を担っているのだろうか。	(1)日本銀行の役割を理解できる。 (2)金融政策について理解し、金融政策が企業や私たちの生活に与える影響について考察できる。
	第4節 財政と私たち ◇節の問い◇ 私たちの社会を豊かにするために、政府にはどのような役割があるのだろうか。		(1)社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解するとともに、財政および租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (2)p. 165「節の問いをまとめよう」について、p. 175「節の振り返り」の4節の表に自分の考えをまとめることができる。
	15 6 15 7	1 私たちの生活と財政 ◎市場経済において、政府はどのような役割を果たしているのだろうか。	(1)市場経済において、財政を通じて公共サービスを提供していることの意義を理解できる。 (2)財政の役割である、公共サービスの提供、所得の再分配、景気変動の安定化などについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	15 8 15 9	2 国の支出と収入 ◎政府はどのように税金を集め、どのようなことに使っているのだろうか。	(1)日本の税金のしくみの特色や課題を通して、国民生活を支える歳出と歳入の特色を理解できる。 (2)日本の歳出と歳入の現状や特色を踏まえ、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、よりよい税制のあり方を考えることができる。
	16 0 16 1	3 社会資本と環境保全 ◎私たちの生活をよりよくするために、国や地方公共団体はどのような社会資本を整備しているのだろうか。	(1)社会資本の役割およびその老朽化の問題について理解できる。 (2)高度経済成長期に公害が発生した理由と、その後の政府の地球規模の環境問題への取り組みを理解できる。 (3)日本の社会資本が抱える問題を理解し、今後の社会資本のあり方を考察し、表現できる。
	16 2 16 3	4 社会保障と少子高齢化 ◎日本の社会保障制度には、どのような課題があるのだろうか。	(1)日本の社会保障制度の四つの柱の基本的な内容を理解できる。 (2)少子高齢社会など現代社会の課題に着目し、これからの社会保障制度のあり方について考察できる。

16 4 16 5	5 これからの日本の財政 ◎少子高齢化が進むなかで、これからの日本の財政はどうあるべきなのだろうか。	(1)日本の財政が抱える問題を、世界との比較から理解できる。 (2)少子高齢化など、日本の社会の課題に着目して、これからの財政のあり方を考察できる。
	*アクティビティに挑戦 赤字バス路線に税金を使うべきか？ 税金には限りがあるなか、どのように税金の使いみちを選択すればよいのだろうか。	(1)赤字バス路線を存続させるかどうかの選択について、市長の立場から、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、合意に向けた解決策を提案できる。
	第5節 日本経済の課題とこれから ◇節の問い◇ 私たちの社会を豊かにするために、日本経済には何が求められているのだろうか。	(1)日本経済がグローバル化の影響を強く受けていることを理解するとともに、デジタル化が進むなかで、これからの日本経済の発展のために必要なことを多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (2)p. 173「節の問いをまとめよう」について、p. 175「節の振り返り」の5節の表に自分の考えをまとめることができる。
3 学 期 17 2 17 3	16 8 16 9 1 安定した経済成長へ ◎景気の変動は企業や私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。	(1)景気変動のしくみを理解し、景気の変動が企業や私たちの生活に与える影響を考えることができる。 (2)景気変動に対する家計や企業の対応を理解し、景気の安定化のために政府や日本銀行の政策が必要であることに気づくことができる。
	17 0 17 1 2 グローバル化と日本経済 ◎グローバル化の進展は、企業や私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。	(1)グローバル化の進展が、企業活動や私たちの生活に与える影響を理解できる。 (2)円高・円安の意味を理解し、為替レートの変動の影響を考察し、表現できる。
	3 これからの日本経済 ◎日本の経済において、将来に向けてどのような動きが見られているのだろうか。	(1)少子高齢化やグローバル化、デジタル化が進んでいることを理解し、その影響を考えることができる。 (2)これからの日本経済の課題を理解し、成長していくために必要なことを考察できる。

17 4 17 7	* 学習を振り返ろう 第3部 第1章 経済活動と私たち ■章の問い■ 私たちの社会を豊かにするために、経済にはどのような働きがあるのだろうか。	(1)「学習の前に」のイラストから、人と人との間で交換が行われている場面を見つけ、その交換が経済活動において、どのような役割を果たしているのかを考え、表にまとめることができる。 (2)分業と交換によって私たちの豊かな生活が成り立っていることを理解できる。 (3)私たちの社会を豊かにするために、経済にはどのような働きがあるのかについて、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、周りの人と意見交換しながら、考えをまとめることができる。
第4部 国際		
	第1章 国際社会と私たち ■章の問い■ 世界平和と人類の福祉の増大を実現するために、国際社会はどのようなことができるのだろうか。 〈計10時間〉	対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解できる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの現代社会にみられる諸課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解できる。 (2)日本国憲法の平和主義をもとに、日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 (3)世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
	第1節 国際社会のしくみ ◇節の問い◇ 地球的課題の解決のために、国際社会はどのような国際協調を目指しているのだろうか。	(1)国際社会においては、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であり、持続可能な国際社会の実現のためにSDGsの達成が求められていることを理解できる。 (2)p. 191「節の問いをまとめよう」について、p. 210「節の振り返り」の1節の表に自分の考えをまとめることができる。
18 2 18 3	* 学習の前に 地球的課題を探してみよう	(1)経済成長が著しいA国では、環境問題や経済格差などのさまざまな課題が生じていることを理解できる。 (2)①～⑥の場面をイラストのA～カと参照させてSDGsの目標との関わりを表にまとめ、目標を実現するために国際社会としてどのような支援ができるのかを考えることができる。

3 学 期	18 4 18 5	1 国家と国際社会 ◎国家間で利害の衝突が起きたときのために、国際社会にはどのような解決のしくみがあるのだろうか。	(1)国家の三要素を理解し、主権国家とは何かを理解できる。 (2)世界平和や経済発展の実現のために国際法と国際協調が必要である理由を考察し、表現できる。
	18 6 18 7	2 領土をめぐる取り組み ◎日本が主張する国境線には、どのような歴史的背景や根拠があるのだろうか。	(1)現代の日本における領土をめぐる動きについて理解できる。 (2)領土をめぐる問題の解決には、どのような方法があるのか考察し、表現できる。
	18 8 18 9	3 国際連合の役割と課題 ◎国際連合は国際社会のなかで、どのような役割を果たしているのだろうか。	(1)国際連合の目的と役割、機構を理解できる。 (2)安全保障理事会の役割と権限について理解し、国際連合の課題を考察し、表現できる。
	19 0 19 1	4 持続可能な国際社会に向けて ◎持続可能な社会を実現するために、どのような立場の人々が協調して取り組んでいるのだろうか。	(1)SDGsは、「持続可能な社会」の実現のために、すべての国が取り組むべき世界共通の目標であることを理解できる。 (2)SDGsを達成するために、国際機関、各国の政府、NGO、民間企業などさまざまな立場の協調が必要である理由を考察できる。 (3)SDGsと身近な生活との関わりに着目して、学習したことをみずからの行動に生かすことができる。
第2節 地球的課題とその解決 ◇節の問い◇ 地球的課題に対して、どのような対策や支援を通して国際協調を実現していけばよいのだろうか。		(1)紛争や核兵器の脅威、地球環境や資源・エネルギーの問題、格差や貧困の解消などの地球的課題に対して、その現状と背景を理解し、解決のために求められる国際協調のあり方について、SDGsとの関わりに着目して多面的・多角的に考察できる。 (2)p. 207「節の問いをまとめよう」について、p. 210「節の振り返り」の2節の表に自分の考えをまとめることができる。	
19 2 19 3	19 2 19 3	1 現代における紛争 ◎紛争と難民問題が続いているのには、どのような背景があるのだろうか。	(1)地域紛争や内戦、テロリズムの背景には、さまざまな要因があることを理解できる。 (2)紛争やテロリズムの再発を防止する努力とその課題について考察し、表現できる。
	19 4 19 5	2 兵器の脅威と軍縮の意義 ◎核兵器をめぐる状況は、どのように変化してきているのだろうか。	(1)核兵器や大量破壊兵器などの脅威を踏まえて、軍縮をめぐる状況を理解できる。 (2)核抑止の考え方を踏まえて、軍縮の難しさと重要性を理解し、軍縮を実現するために必要なことを考察できる。

3 学 期	19 6 19 7	3 地球規模で広がる環境問題 ◎なぜ、地球環境問題の解決には国際協調が求められるのだろうか。	(1)さまざまな地球環境問題の原因と、地球環境問題が人々に与える影響について理解できる。 (2)地球環境問題の解決に向けて、国際協調のあり方を考察し、表現できる。
	19 8 19 9	4 資源・エネルギーの問題 ◎国際社会における資源・エネルギーの問題は、どのように変化しているのだろうか。	(1)化石燃料などの資源は有限であり、地球温暖化とも深く関係していること、再生可能エネルギーへの転換や新しいエネルギーの開発が必要であることを理解できる。 (2)資源・エネルギーをめぐる国際情勢や再生可能エネルギーへの転換を踏まえて、今後の日本のエネルギー政策について考察できる。
	20 0 20 1	5 脱炭素社会に向けた取り組み ◎脱炭素社会の実現に向けて、国際社会はどのような取り組みを進めているのだろうか。	(1)地球温暖化など地球規模の環境問題に対して、脱炭素社会の実現が求められていることを理解できる。 (2)脱炭素社会の実現に向けて、国際協調が重要であることを踏まえて国際社会の取り組みについて考察できる。
	20 2 20 3	6 国際社会の変化 ◎グローバル化が進むなかで、国際社会にはどのような変化が起きているのだろうか。	(1)現代の国際社会における格差の現状を理解できる。 (2)グローバル化が進むなかで、南北問題や南南問題といった国家間の格差の広がり、国内格差の拡大、ポピュリズムの台頭、テロの増加などが国際社会に与えている影響を考察し、表現できる。
	20 4 20 5	7 貧困問題とその解消 ◎貧困問題の解消に向けて、国際社会はどのような取り組みを進めているのだろうか。	(1)貧困問題の背景や貧困に伴うさまざまな課題について理解できる。 (2)貧困問題の解消に向けて、国際社会はどのような支援や協調をすべきか考察し、表現できる。
	20 6 20 7	8 国際社会における日本の役割 ◎唯一の被爆国であり、平和主義を掲げる日本は、国際社会でどのような役割を果たすべきだろうか。	(1)日本の外交方針と、これまで行ってきた国際協力・国際協調の取り組みを理解できる。 (2)日本国憲法の平和主義を踏まえ、国際社会における日本の役割を考察し、表現できる。

	20 8 20 9	* アクティビティに挑戦 2040年の日本の電源構成案を提案しよう 持続可能性という観点を踏まえ、将来の日本の電源構成についてどのように考えていくべきだろうか。	(1)2040年の日本の発電エネルギーについて、効率と公正、希少性、協調、持続可能性などの見方・考え方を働かせて、エネルギーの持続的な安定供給につながる電源構成を多面的・多角的に考察し、自分の考えを明確にして説明できる。
	21 0 21 2	* 学習を振り返ろう 第4部 第1章 国際社会と私たち ■章の問い■ 世界平和と人類の福祉の増大を実現するために、国際社会はどのようなことができるのだろうか。	(1)「学習の前に」のイラストのア〜カから、自分が特に大切だと考える場面とかかわりの深いSDGsの目標を一つ選び、その場面の課題を解決するために、どのような支援や対策ができるかについて考えることができる。 (2)世界平和と人類の福祉の増大を実現するために、日本政府や自分に何ができるのかについて、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、周りの人と意見交換しながら、考えをまとめることができる。
第5部 課題探究学習			
		第1章 課題探究と私たち ■章の問い■ 自分でテーマを設定して、課題探究学習をやってみよう。 〈計10時間〉	よりよい社会に向けて持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を通して、次の資質・能力を身につけるようにする。 (1)私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述できる。 (2)私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
3 学 期	21 6 21 7	レポート作成の手順☆ 課題を決めよう(課題の設定)	(1)これまでの学習を振り返り、よりよい社会に向けて解決しなければならない課題を確認し、そのなかから自分の関心と重なる課題を設定できる。 (2)設定した課題について、何が問題で、なぜ調べるのかを改めて整理できる。 (3)設定した課題を解決するための方法と、それを証明するために必要な資料を考えることができる。
	##	レポート作成の手順☆ 資料を集めよう(資料の収集と読み取り)	(1)解決すべき課題に関する必要な情報を集めることができる。 (2)資料ごとに適した情報収集の方法があることを理解できる。 (3)集めた情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめることができる。
	21 9 22 1	レポート作成の手順☆ 考察しよう(考察、中間発表での考察の例)	(1)課題を解決するためにまとめた資料を分類し、さまざまな見方・考え方を働かせて解決策を考察できる。 (2)考察した解決策について、周りの人と意見交換を行って、よい点や問題点を確認できる。 (3)考察した解決策を修正できる。

22	レポート作成の手順☆ レポートを書こう(構想とまとめ)	(1)これまで考察してきた課題の解決策について、1000～1200字程度のレポートとして作成することができる。 (2)これまで考察してきた課題の解決策をまとめたレポートについて、他者にわかりやすく伝えることができる。 (3)他者の発表を聞いて、みずからの考察を深め、よいより社会づくりに主体的に参画しようとする態度をもつことができる。
2		
22 3		

0時間

杉並区立杉森中学校
担当:松木園英理

評価規準の具体例
①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現
③＝主体的に学習に取り組む態度

①現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化などがみられることや、現代社会における文化の意義や影響について理解している。
①現代社会の見方・考え方の枠組みである対立と合意、効率と公正などについて理解している。
②位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、また文化の継承と創造の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。
②社会生活におけるものごとの決定のしかた、きまりを通した個人と社会の関係、きまりの役割について、事例の評価や合意案の作成と修正を通して、対立と合意、効率と公正などの方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現している。
③現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みを働かせて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

①現代日本の社会の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化がみられることを理解している。
②位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、情報化、グローバル化、少子高齢化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。
③節全体の見通しを立てながら、私たちが生きる現代社会の特色について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に追究し、自分たちの生活する地域や社会に関わろうとしている。
③p. 11「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①情報化、グローバル化、少子高齢化など、45年間で社会が大きく変化していることをイラストから具体的に読み取っている。
③45年間で社会がどのように変化したかを表にまとめ、周りの人との意見交換を通して、より多くの変化を見つけようとしている。
③「章の問い」を踏まえて本章の見通しをもつとともに、まち並みの変化した様子から、現代社会の変化を読み取ることを通して、現代社会が抱える課題を主体的に調べ、追究しようとしている。

①持続可能な社会とはどのような社会を意味するのかを理解している。 ②持続可能な社会の実現に向けて私たちはどのようなことを大切にしていくべきなのかについて考察し、表現している。 ③持続可能な社会の実現のために、自分たちができることは何かを追究し、主体的に社会に関わろうとしている。
①高度情報通信ネットワーク社会の到来により、多種多様な情報が瞬時に展開される状況になったことを、さまざまな資料から読み取っている。 ②情報化の現状を踏まえ、今後の社会に与える影響を考察している。 ③情報化が進むことによって、私たちの生活にどのような影響があるかを主体的に調べ、まとめようとしている。
①グローバル化の進展により、大量のヒトやモノ、カネ、情報が国境を越えて容易に移動し、各国の相互依存関係が強まり、共存のために相互協力が必要とされていることを、さまざまな資料から読み取っている。 ②グローバル化の現状を踏まえ、今後の社会に与える影響を考察している。 ③グローバル化が進むことによって、私たちの生活にどのような影響があるかを主体的に調べ、まとめようとしている。
①少子高齢化や人口減少は、家庭や日常生活に変化をもたらすとともに、国民経済や財政状況の悪化にもつながることを、さまざまな資料から読み取っている。 ②少子高齢化の現状を踏まえさせ、今後の社会に与える影響を考察している。 ③少子高齢化が進むことによって、私たちの生活にどのような影響があるかを主体的に調べ、まとめようとしている。
①現代社会における文化の意義や影響および日本の文化の特色を、地域の伝統文化や無形文化遺産、日本のアニメーションなど、文化の多彩な側面から理解している。 ②文化の継承と創造の意義について考察するとともに、異文化理解が求められている理由を、さまざまな資料を活用しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③節全体を見通しながら、私たちが生きる現代社会と文化の特色について、自分たちの生活する地域や社会に関わりながら現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に追究しようとしている。 ③p. 15「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①科学技術や芸術、宗教などといった文化が、私たちの生活や人生に影響を与え、より豊かなものにしてくれることを、さまざまな資料から読み取り、理解している。 ②異文化理解が求められている理由について、世界には多様で豊かな文化が存在し、それぞれの文化は対等であることを踏まえて考察し、表現している。 ③さまざまな文化が私たちの生活や人生に与える影響について、主体的に調べ、まとめようとしている。

①日本の文化の特色と継承・創造の意義について、さまざまな資料から読み取り、理解している。 ②日本の文化の特色について、自然や社会との調和のなかで育まれてきた点を踏まえて考察し、世界に日本の文化を広めていくという視点から表現している。 ③日本の伝統文化の継承について、自分の生活する地域との関わりから主体的に調べ、まとめようとしている。
①現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 ①人間は本来社会的存在であることをもとに、個人の尊厳と両性の本質的平等、きまりの重要性やそれを守ることの意義、個人の責任について理解している。 ②社会生活における物事の決定のしかた、きまりを通した個人と社会との関係、きまりの役割について、事例の評価や合意案の作成と修正を通して、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例における合意案の作成と修正に主体的に取り組んでいる。 ③節全体の見通しを立てながら、日常生活にあるきまり、社会や社会集団のなかでの対立と合意、効率と公正がどのようにして生じているかを、主体的に調べ、まとめようとしている。 ③p. 21「節の問いをまとめよう」について、p. 24「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①「人間は社会的存在である」という考えに基づき、さまざまな協力の下に生活が成立していること、人はそれぞれの考え方や利害をもっているため、対立が起こることがあることを理解している。 ②「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例について、「現在の数」「地域の特徴」「人口」「人口構成比」などをもとに、住んでいる場所、今と今後の環境の変化など、さまざまな背景から考察し、表現している。 ③「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例における合意案の作成に主体的に取り組んでいる。
①よりよい合意をつくるための見方・考え方である「効率」や「公正」の意味を理解し、「効率」や「公正」を判断するための観点を身につけている。 ②「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例について、よりよい合意をつくるために、「効率」や「公正」といった見方・考え方を働かせて合意案を構想し、表現している。 ③「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」の事例における合意案の作成に主体的に取り組んでいる。
①「効率」や「公正」などに配慮しながら、みんなの合意によってつくられたきまり（「契約」）は、守る責任や義務が生まれ、それを守ること、権利や利益が保障されることにつながることを理解している。 ②よりよい決定の仕方や契約の意義について考察し、表現している。 ③「防災倉庫の運用規則は変えられる？」の事例について、自分の考えをまとめ、主体的に取り組んでいる。

①対立する状況からよりよい合意に至るために、効率と公正などの見方・考え方を働かせて議論したり、解決策を提案・検討したりする必要があることを理解している。
①必要な情報を収集し、みずからの主張を展開する際に情報の取捨選択を適切に行っている。
②効率と公正の見方・考え方を働かせて解決策を考え、追究した内容や思考の結果をわかりやすく表現している。
③マンションの騒音問題に対して、関心をもち、情報収集や追究、発表に意欲的に取り組んでいる。また、効率と公正などの見方・考え方を働かせて課題を解決しようという態度で学習に取り組んでいる。

①45年間でみられる社会の変化を改めてイラストから見つけ、それを情報化、グローバル化、少子高齢化に分類している。
②現代社会にみられる具体的な事象を自分の生活のなかから見つけ、それをまとめるようなキャッチフレーズを考えている。
②よりよい社会生活を営むために、私たちはどのようなことを大切にしていかなければならないのかについて、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、表現している。
③「章の問い」に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、自身の考えを深めようとしている。

①個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。
①民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。
①日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解している。
①日本国および日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。
②対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
③個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

①立憲主義の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法の三大原理、国民主権の意義と天皇の地位について理解し、その知識を身につけている。
②民主的な社会生活に関わるさまざまな事象から学習課題を見だし、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現している。
③節全体の見通しを立てながら、民主的な社会生活に関わるさまざまな事象をもとに、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
③p. 41「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①私たちの暮らしが、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という日本国憲法の三大原則と関わっていることをイラストから具体的に読み取っている。 ③「さくら野商店街」周辺のまち並みから、人が困っている場面や課題がある場面を表にまとめ、周りの人との意見交換を通して、私たちの暮らしのなかにある課題をより多く見つけようとしている。 ③私たちの暮らしと憲法の関わりを考え、「章の問い」を踏まえて本章の見通しをもつとともに、私たちの暮らしのなかには、さまざまな課題が存在していることに気づき、課題の解決のために主体的に追究しようとしている。
①警察官の役割を考えることなどを通じて、国家権力とは何かを理解している。 ①多数決に関する資料から多数決の問題点を読み取っている。 ②国家権力をよりよく正しく使うために重要な民主主義や立憲主義の考え方について、国家権力の力の大きさと国家権力が犯しうるあやまちに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
①「人権獲得の歩み」の資料から、いつ、どこで、どのような人権が保障され始めたのかについて読み取り、人権の保障の獲得について、歴史的分野での学習との関連を踏まえて理解している。 ①法の支配とは何かを理解している。 ②法の支配が必要な理由と、それを実現するために必要なことについて、民主主義と人権の保障との関わりから考察し、表現している。
①日本国憲法の特徴について、大日本帝国憲法との国民の位置づけの違いに着目して、読み取っている。 ①日本国憲法の成立過程から、日本国憲法の三大原理や人権に対する考え方について理解している。 ②日本国憲法の成立過程を、大日本帝国憲法の成立過程や人権に対する考え方の比較や、帝国議会の成立過程への関わりから、多面的・多角的に考察している。
①国民主権を具現化するためのしくみや国民が政治参加する方法などについて、資料から読み取っている。 ①日本国憲法の定める象徴天皇制の意味を、国民主権と天皇の地位との関わりから理解している。 ②日本国憲法で国民主権が定められていることの意義について、憲法と国家権力の行使の関わりに着目して多面的・多角的に考察している。
①日本国憲法の定める平和主義の考え方について理解している。 ①憲法9条が定めていることについて、本文から読み取っている。 ②日本が平和主義を守るために行っていることについて、自衛隊と日米安全保障条約に着目して考察し、表現している。 ③集団的自衛権という国際法上の権利に基づいて、政府が憲法の解釈を見直した背景を追究しようとしている。

①多数決が公正に運用されるためには、反対意見や少数意見が十分に尊重されることが必要であることや、多数決で決めてはならないことがあることについて理解している。 ②民主主義を実現するためには、公正な議論が必要となること、一人ひとりの意思を解決策に十分反映させることが必要であることを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③効率と公正などの見方・考え方を働かせて、主体的に課題を解決しようという態度で学習に取り組んでいる。
①基本的人権の保障について、個人の尊厳を基礎に、自由権、平等権、社会権などの権利が保障されていることを理解しているとともに、現実の社会にある差別や偏見について、さまざまな資料を調べ、まとめている。 ②社会権が生まれてきた背景や新しい人権が広がってきた理由について、社会の変化や歴史的な経緯などから多面的・多角的に考察し、表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、基本的人権の保障をめぐり、自由権、平等権、社会権など憲法で保障されている権利が、必ずしも守られていない状況に着目し、人権をめぐる諸課題について主体的に調べ、まとめようとしている。 ③p. 63「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①「基本的人権の構成図」から、個人の尊重と平等権を基礎として、自由権や社会権、参政権などの権利が保障されていることを読み取っている。 ②個人の尊重は基本的人権の根本であり、個人の尊重を実現するためには、国民に基本的人権が保障されなければならないことを考察し、表現している。
①自由権は、「精神活動の自由」「経済活動の自由」「生命・身体の自由」に分けて定められていることを理解している。 ②「生命・身体の自由」について、不当な逮捕、拷問や残虐な刑罰、自白の強要の禁止など多くの条文が設けられている理由を考察し、表現している。
①平等権は、いかなる区別も許さないという権利ではなく、不合理な区別を禁じるものであることを理解している。 ①ジェンダー不平等やLGBTQ+に対する差別の解消に向けて法律や制度の整備が進んでいることを理解している。 ②性差を超えた平等を実現するために大切にしなければならないことを考察し、表現している。
①アイヌ民族への差別、日本に住む外国人への差別、障がいのある人への差別など、さまざまな不平等や差別があることを理解している。 ②ダイバーシティとインクルージョンの考え方を踏まえて、不平等や差別を解消するために自分たちが大切にしなければならないことを考え、表現している。
①社会権として、生存権、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権が保障されていることを理解している。 ①生存権がどのような権利であるか具体的な事例を通して理解している。 ②「人間らしい生活ができない人を支える義務が国家にある」という福祉国家の考え方から、社会権が生まれたことの意義を考察し、表現している。

①人々が権利を十分に行使できるようにするための権利として、日本国憲法では参政権や国務請求権が保障されていることを理解している。 ①子どもの人権を守るために、さまざまな法律や制度が整備されていることを理解している。 ②保護者からの虐待、大人からの暴力や性加害、いじめ、ヤングケアラーなどが社会的な問題になっている現状に着目し、子どもの人権を守るために必要なことを考え、表現している。
①環境権、自己決定権など、新しい人権が保障されるようになってきたことを理解している。 ②憲法に直接定められていなくても、憲法13条で保障されている幸福追求の権利を根拠として、新しい人権が法律で認められるようになってきた背景を考察し、表現している。 ③医療技術や科学技術の発展、在留外国人の増加に伴って新たに必要になってきている人権に着目し、人権をめぐる諸課題について追究しようとしている。
①情報化の進展に伴い、プライバシーの権利や知る権利などの新しい人権が求められるようになってきている現状を理解している。 ②情報社会で起きている人権侵害に対して、さまざまな法律や条例が制定されていることを踏まえ、今後どのような人権の保障が必要になっていくのかを考え、表現している。 ③私たち一人ひとりが情報社会における人権侵害の加害者にならないよう、主体的に社会に関わろうとしている。
①日本国憲法では、普通教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務が定められていることを理解している。 ②幸福追求の権利や経済活動の自由には、「公共の福祉に反しない限り」という制約がある理由を考察し、表現している。 ③憲法に定められた三つの義務について、必要性を理解し、将来にそれらを果たそうとしている。
①合意形成を図るための考え方としての効率と公正の見方・考え方について理解している。 ①Aさんの主張やB市の主張が、日本国憲法に定められている基本的人権の尊重と公共の福祉に基づくものであることを理解している。 ②Aさんの主張やB市の主張を憲法に基づいて検証し、日本国憲法に定められている基本的人権の尊重と公共の福祉について、その意義や課題を考察している。 ②さまざまな立場の人の主張を多面的・多角的に分析し、主張の妥当性を判断し、合意形成を図るための方法を考察している。 ③権利をめぐる対立が生じた場合、さまざまな立場の人の意見を踏まえ、話し合いや交渉を通して主体的に合意形成を図ろうとしている。
①憲法が最高法規であることの意味、三権分立、違憲審査のしくみを理解し、憲法改正のしくみと課題について、さまざまな資料から調べ、図表などにまとめている。 ②法の支配を実現し、権力の濫用を防ぐために、憲法保障としてどのようなしくみがつくられているのか、憲法保障のため国民はどのようなことができるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③18歳以上の国民は、憲法改正の国民投票を行うことができることに着目し、憲法の意義や憲法をめぐる課題について主体的に追究しようとしている。 ③p. 69「節の問いをまとめよう」について、p. 70「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①三権分立の意義と、三権分立における国民の役割を理解している。 ②国家機関は、主権者である国民の意思に従わねばならず、憲法で与えられた権限のみを、憲法の定める手続に従って行使しなければならないことの理由を考察している。
①憲法は最高法規であり、基本原理の変更は許されないと解釈されていることを理解している。 ②最高裁判所が「憲法の番人」といわれる理由を考察し、表現している。 ③18歳以上の国民は、憲法改正の国民投票を行うことができることに着目し、憲法の意義や憲法をめぐる課題について主体的に追究しようとしている。
①困っている人や課題がある場面と、権利が保障されている場面をイラストから見つけ、それを関係する日本国憲法の条文と結びつけている。 ②私たちにあって、憲法とはどのような存在であるかを考察し、表現している。 ②民主的な社会をつくるために私たちがしなければならないことについて、対立と合意、効率と公正、個人の尊厳と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、クラゲチャートに書き出している。 ③「章の問い」に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、自分の考えを深めようとしている。
①国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解している。 ①議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用のあり方について理解している。 ①国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ①地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。 ②対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など、国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③民主政治と政治参加について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
①民主政治を発展させるために必要なことについて、法律と権力の関係、間接民主制のしくみや政党とマスメディアの役割、選挙制度のしくみを理解し、日本の政党や選挙制度の課題について、さまざまな資料から調べ、図表などにまとめている。 ②公正な世論を形成し、民主政治を実現するために、国民一人ひとりが、メディアリテラシーを身につけることの必要性や、公正な選挙を行うためにどのようなしくみが求められるのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、18歳以上に投票権があることを認識し、公正な選挙制度のあり方や日本の選挙制度の課題について主体的に調べ、追究しようとしている。 ③p. 83「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①みんなが暮らしやすい社会をつくるためには、自分たちが政治に積極的に参加していくことが大切であることを理解している。 ②「はるの市」の市長選挙への投票を通して、二人の候補者の主張を市が抱える課題を踏まえて分析し、自分が選んだ住民の立場から賛同できる主張の内容とその内容に賛同する理由を考えている。 ③候補者を選んだ理由を表にまとめ、周りの人との意見交換を通して、それぞれが重視した内容に着目して自分の考えを深めようとしている。 ③「章の問い」を踏まえて本章の見通しをもつとともに、自分自身はどちらの候補に投票するかについて、「はるの市」が抱える課題を市民の一人として追究しようとしている。
①政治は私たち一人ひとりの考え方の違いや利害の対立を調整し、社会全体の利益を増進させていく働きがあることを理解している。 ①国や地方公共団体がもつ権力が適切に使われるために、社会を構成する一人ひとりが参加して決定する民主主義の考えを理解している。 ②国民によって選ばれた国会議員を通じて国民の願いが実現されていくしくみである議会制民主主義の意義を考察し、表現している。
①世論とは、政治に関する人々の意見であり、国会議員や政府には世論に耳を傾けながら政策を進めていくことが求められることを理解している。 ②マスメディアやソーシャルメディアが発信する情報に対して、信頼できる情報は何かを判断する必要性について考察し、表現している。
①政党の役割と政党政治のしくみを理解している。 ①1990年代以降の日本の与党の変化の特色を資料から読み取っている。 ②国民のさまざまな意見を政策に反映させるために、政党の考え方や政策を国民に示し、国民に選択の機会を提供するという政党の役割について考察し、表現している。
①普通選挙、平等選挙、秘密選挙、直接選挙の原則の意味を理解している。 ①衆議院議員選挙と参議院議員選挙のしくみの違いを理解している。 ②小選挙区制と比例代表制の課題や一票の格差の問題など、日本の選挙制度の課題を考察し、表現している。 ③18歳以上に選挙権があることを認識し、公正な選挙制度のあり方や日本の選挙制度の課題について主体的に追究しようとしている。
①国会、内閣、裁判所の役割について、それぞれの機関のしくみと仕事の内容を理解するとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、さまざまな資料から調べ、図表などにまとめている。 ②国民主権を守るという観点から、国会、内閣、裁判所の果たすべき役割と、それぞれの機関が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、国会、内閣、裁判所と私たちの生活との関わりに着目し、将来、裁判員に選任される可能性があることを踏まえ、裁判のあり方や裁判員制度のしくみについて主体的に考察し、追究しようとしている。 ③p. 97「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①憲法の条文を通して、国会の地位と役割を理解するとともに、国権の最高機関、唯一の立法機関としての、国会の主な仕事を理解している。 ②衆議院の優越が認められている理由を、衆議院と参議院の議員定数、任期、解散の有無などの違いに着目して考察し、表現している。
①常会、臨時会、特別会の違いと審議のルールを理解し、法律案の提出から施行までの過程を図表などにまとめている。 ②議員立法や女性議員の少なさなどに着目して、国会審議における課題を考察し、表現している。
①内閣は、行政事務全般の指揮監督のほか、条約の締結、予算案の作成、天皇の国事行為への助言と承認、最高裁判所長官の指名など、多岐にわたる役割を果たしていることを理解している。 ②日本の議院内閣制について、内閣が国会からの信頼を得て、行政全体に責任をもつことに着目して考察し、表現している。
①行政機関の役割を理解し、行政権の拡大やその背景について理解している。 ②行政改革や規制緩和が進められている理由を考察するとともに、規制緩和することのメリットとデメリットについて考察し、表現している。
①民事裁判と刑事裁判の違いを踏まえ、裁判が原則として公開で行われる理由を理解している。 ②三審制がとられている理由について、再審が認められていることも踏まえて考察し、表現している。
①刑事裁判では、さまざまな権利が保障されていることを理解している。 ②裁判員制度が導入された理由とその課題について、被告人の人権保障や被害者参加制度を踏まえて考察し、表現している。 ③裁判員制度について、将来、自分たちが選任される可能性があることを踏まえ、裁判員制度の課題を追究しようとしている。
①裁判員裁判の評議・評決を模擬体験することを通して、裁判員裁判の流れについて理解している。 ②裁判員制度の意義や課題を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②事件の状況や証拠となる証言の検証をもとに、弁護人と検察官の主張の妥当性を多面的・多角的に分析し、自分なりの判決を考え、表現している。 ③裁判員として刑事裁判の判決を考えることを通して、裁判についての関心を高め、裁判を身近なものとしてとらえている。

①地方公共団体の仕事としくみ、政治参加のしかたを理解し、地方財政の抱える課題について、さまざまな資料から読み取り、図表などにまとめている。 ②若者の投票率が低いという問題点を、地方自治が「民主主義の学校」とよばれることや、政治参加することの意義などから多面的・多角的に考察し、表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、自分の住む地方公共団体について調べて関心をもち、自分たちが近い将来、選挙権をもつことを意識し、選挙権の行使や地方自治のしくみについて主体的に調べ、まとめようとしている。 ③p. 107「節の問いをまとめよう」について、p. 110「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①地方自治とは何かを、「住民自治」と「団体自治」の原則との関わりから理解している。 ①社会の変化から地方分権の動きと地方創生の重要性を理解している。 ②地方自治が「民主主義の学校」とよばれる理由を身近な政治への参加を通して考察し、表現している。
①地方の政治では、住民が地方議会の議員と首長を、直接選挙によって選ぶことができることを理解している。 ②地方の政治では、直接請求権や住民投票などの直接民主制が幅広く認められている理由を考察し、表現している。
①多くの地方公共団体が事業を行うにあたって、自主財源だけではなく、国から地方交付税交付金が配分されていることを理解している。 ②地方公共団体の借金である地方債の現在高が増加傾向にある理由と、持続可能な地方財政のために必要なことを考察し、表現している。
①日本の選挙では、高齢者の投票率が高く、若者の投票率が低くなっているという現状を資料から読み取っている。 ②政治では投票率が低い世代の意見が反映されにくいことに着目し、若者の投票率が低いことの問題点を考察し、表現している。 ③3年後には、自分たちも選挙のほか、さまざまな政治参加の権利をもつことを踏まえ、政治参加することの意義を主体的に追究しようとしている。
①自分たちが住むまちの政治に関する資料をさまざまな手段を用いて情報を収集し、「自分たちのまち」の「あるべき姿」を考えるために必要な情報を適切に選択している。 ②自分たちが住むまちの課題を見だし、「自分たちのまち」をよりよくするための予算案を、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考え、円グラフに表現している。 ③地方自治に対する関心を高め、住民自治の原則に基づいて意欲的に自分たちが住むまちをよりよくするための提案をしようとしている。

①「はるの市」の市長選で、どちらの候補者に賛同するかを考え、その理由を表にまとめ、投票する候補者を決めている。

②政治とは何かについて考え、表現している。

②民主主義の担い手として、政治にどのように関わっていけばよいかについて、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、クラゲチャートに書き出している。

③「章の問い」に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、自分の考えを深めようとしている。

①身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。

①現代の生産や金融などのしくみや働き、市場経済の基本的な考え方、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の内容について理解している。

①社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、財政および租税の意義、国民の納税の義務について理解している。

②対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。

②対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体が果たす役割、財政および租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

③市場の働きと経済、国民の生活と政府の役割について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

①分業と交換や希少性などの経済の見方・考え方について理解し、そのしくみを図表などにまとめている。

①私たちの生活を豊かにするための消費者の役割と責任を理解しているとともに、国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために、消費者政策を推進する役割を担っていることを理解している。

②分業と交換、希少性などの見方・考え方に着目したり関連づけたりして、経済活動の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。

②経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

③節全体の見通しを立てながら、経済活動の意義について、分業と交換、希少性などの見方・考え方を働かせて、身近な消費活動を通して主体的に学習しようとしている。

③個人の消費生活に関する諸問題に着目し、主体的に問題解決しようとしたり、学習したことをみずからの消費生活に生かそうとしたりしている。

③p. 127「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①私たちの暮らしは生産と消費を中心とする経済活動によって成り立っていることを理解している。 ①経済活動はモノやサービスをお金と交換することで循環し、私たちの生活が豊かになっていることを理解している。 ③イラストから交換が行われている場面を表にまとめ、周りの人との意見交換を通して、交換のしくみについて自分の考えを深めようとしている。 ③「章の問い」を踏まえて本章の見通しをもつとともに、中学生の自分が行っている経済活動にも目を向け、経済の役割について主体的に調べ、追究しようとしている。
①経済活動は生活のための手段であり、生活を豊かにする活動であることを理解している。 ①個人や企業の経済活動が、さまざまな条件のなかでの選択を通して行われていることを理解している。 ②分業と交換に着目して、経済活動の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ②資源の効率的な配分が大切な理由について、希少性に着目して考察し、表現している。
①生産して消費することは人間の生活の維持・向上につながり、経済活動は生活するための手段であることを理解している。 ①経済の基本的な考え方である分業と交換について、理解している。 ②無人島の事例をもとに、分業と交換がなぜ必要であるかを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③現代社会の経済システムができあがった理由を考察しながら、経済活動の観点から全体的に社会に関わろうとしている。
①家計の意味、所得とその種類、貯蓄と借金の役割について理解している。 ①家計ではどのような支出がされているかについて資料を読み取っている。 ②将来のを見据えた消費の選択として、借金と貯蓄のあり方を考えている。 ②希少性などの見方・考え方を働かせて、家計の支出や支払い方法について考え、表現している。 ③学習したことを生かして将来の消費の選択について追究しようとしている。
①経済のしくみにおいて、流通が大きな役割を果たしていることを理解している。 ①販売形態が多様化したことで、購入方法の選択肢が増えたことを理解している。 ①流通の合理化や多様化による利点・問題点を資料から読み取り、整理している。 ②消費者として、広告や企業の情報利用について注意しなければならない理由を考え、表現している。
①「契約」の意味、消費者の権利を支えるしくみ、消費者をめぐる問題に対する政府の取り組みと目的を理解している。 ②「契約」により、消費者にどのような権利と義務が発生するかを考えている。 ②経済活動における消費者の権利と責任について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③個人の消費生活に関する諸問題に着目し、主体的に問題解決しようしたり、学習したことをみずからの消費生活に生かそうしたりする。

①一人暮らしの生活にかかる費用を考えることを通して、身近な消費生活と経済活動の意義について理解している。 ①使えるお金が限られた状況のなかで何にお金を使うかについて考えることを通して、希少性などの見方・考え方を身につけている。 ②一人暮らしをするうえで、使えるお金が限られた状況で何にお金を使うかについて、選択の基準を設定し、優先順位をつけている。 ③将来を見据えて、消費の選択や消費と貯蓄のバランスを考えた生活を送る意識で取り組もうとしている。
①企業の経済活動に関するさまざまな資料から、社会・経済の動きを適切に読み取り、要点を図表などにまとめるとともに、企業活動のしくみや役割を理解し、勤労の権利と義務、労働組合の意義、企業の社会的責任などについて理解している。 ②企業の役割や責任、職業の意義および雇用と労働条件の改善について、さまざまな資料をもとに課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、企業の経済活動について、パン屋の経営の疑似体験なども活用しながら現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ③p. 143「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①企業には、商品の生産以外にも雇用の提供や技術革新の取り組みなど多様な役割があることを理解している。 ①企業と家計、企業間の分業と交換により、私たちの生活が成立していることを理解している。 ②企業活動の目的について、起業する立場から考えている。
①企業の種類について、企業活動の目的と規模の視点から理解している。 ①株式会社のしくみについて、株式の発行と株価の変動といった視点から理解している。 ①大企業と中小企業の特色を資料から読み取らせ、日本経済における中小企業の役割を理解している。 ②中小企業やベンチャー企業の役割について、分業と交換などの見方・考え方を働かせつつ、技術力、成長性、技術革新、雇用などから多面的・多角的に考察し、表現している。
①企業の競争の意義や、効率と公正などの見方・考え方を働かせて健全な企業競争を保つために行政機関が果たしている役割を理解している。 ②企業間の競争によってもたらされる利益と、独占や寡占が消費者や社会に与える影響について考察し、適切に表現している。
①働くことは自分や家族の生活を支えるだけでなく、個人と社会とを結びつけ、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会の支え手になるという意義を理解している。 ①女性や高齢者、障がいのある人、外国人労働者の雇用など、働く機会の提供に関わる問題点を理解している。 ②勤労が国民の権利・義務であることや職業選択の自由が保障されていることと関連づけて、働くことの意義を考えている。 ②働く機会の提供をめぐる諸問題について、政府や企業にはどのような対応が求められるかを考察し、表現している。

①資料から雇用形態の変化やそこから生じる問題点を読み取り、それらの問題点を解決していくための行政の取り組みを理解している。 ①多様で柔軟な働き方に関する資料を収集し、情報をまとめている。 ②健康で豊かな生活を実現するために、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の観点から、さまざまな労働問題を予防したり、適切な行動がとれるようにしたりするための方法を考えている。
①さまざまな情報手段を活用して企業の社会的責任（CSR）に関する事例を収集し、図表などにまとめている。 ②企業が社会的責任を果たすことが求められている理由を、消費者や従業員、市場との関係、地域社会との関わり、国際社会とのつながりなどに着目して考察し、表現している。 ③企業活動の目的と果たすべき社会的責任に着目して、経済に関わる諸問題について主体的に調べて追究している。
①起業するために必要な開業資金と開業したときの利益について、計算できている。 ②パン屋さんの起業計画を疑似体験することで、企業の役割、職業の意義、雇用と労働条件、企業の社会的責任、資金の集め方などについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に企画書に表現している。 ③企業の生産活動に対する関心を高め、起業する側の視点で、企業活動のしくみ、雇用と労働条件、企業の社会的責任、資金の集め方などについて意欲的に追究しようとしている。
①市場経済のしくみや価格の働きについて理解している。 ①金融の役割や日本銀行の金融政策について理解している。 ②市場経済における価格決定のしくみ、金融の役割、日本銀行の金融政策について、さまざまな資料をもとに課題を見だし、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、通貨や金融に関する新しい動きについて、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ③p. 153「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①需要曲線と供給曲線のグラフから、需要量と供給量のバランスと価格の関係を読み取っている。 ①市場経済には、生産・消費について人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることを理解している。 ②市場価格決定のしくみについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
①経済活動における貨幣の役割を理解している。 ①現金通貨と預金通貨の特徴について考えている。 ①電子マネーや暗号資産などのデジタル通貨が身近な存在になっていることを理解している。 ②現金通貨や預金通貨を中心に行われてきた財やサービスの取り引きのあり方を大きく変えるデジタル通貨の登場と働きについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
①直接金融と間接金融の違いを明確にして、金融機関と家計や企業との関係を図表などにまとめ、金融のしくみや役割を理解している。 ①近年、金融機関にはESG投資をけん引する役割が期待されていることを理解している。 ①フィンテックとよばれる、ICTと金融の融合がめざましく進んでいることを理解している。 ②金融の新しい動きが社会に与える影響と課題を踏まえて、よりよい社会のあり方について考察し、表現している。

①日本銀行の役割を、「発券銀行」「政府の銀行」「銀行の銀行」の三つの視点から理解している。 ①金融政策について、お金の量の調整に着目して資料から読み取っている。 ②近年の金融政策の状況を踏まえて、日本銀行が家計や企業に与えている影響について考察している。
①財政のしくみを理解しているとともに、社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、社会保障の充実などを通して、私たちの生活が財政の働きにより支えられていることを理解し、日本の財政が抱える問題を読み取っている。 ②公正な税制度のあり方やこれからの社会保障制度と財政のあり方などについて、効率と公正、分業と交換、希少性などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③節全体を見通しながら、国民生活と福祉の向上に向けた政府の役割について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ③p. 165「節の問いをまとめよう」について、p. 175「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①財政の役割を公共サービスの提供、所得の再分配、景気変動の安定化の面から理解している。 ①景気の変動と財政政策の関連を示す図から、財政政策が景気変動に与える影響を読み取っている。 ②市場経済の基本的な考え方を踏まえて、経済活動における財政の役割について考察し、表現している。
①税金の負担者として、税金の使いみちに関心をもつ必要があることを理解している。 ①国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解している。 ②税金の役割について、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連づけて考察している。 ②累進課税を強化するという考え方の是非について、効率と公正などの見方・考え方を働かせて分析し、税制のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。
①社会資本の役割およびその老朽化が深刻な問題になっていることを理解している。 ①公害問題の背景と、政府の対応の歩みを理解するとともに、これからの社会では、地球環境問題の解決に向けて循環経済（サーキュラーエコノミー）の実現が不可欠であることを理解している。 ②具体的な事例から、社会資本によって私たちの生活が支えられていることに気づき、税金の使い方の選択について、さまざまな立場から考察し、表現している。
①日本の社会保障制度は、生活上のさまざまなリスクに対して、社会全体で助け合い、支え合おうとするしくみであることを理解している。 ①憲法25条の生存権に基づく社会保障制度の四つの柱の基本的な内容について理解している。 ②少子高齢化が進む日本における社会保障制度の課題を見だし、受益と負担の均衡の取れた持続可能な社会保障制度の構築など、これからの福祉社会の目指す方向について考察し、表現している。 ②社会保障の充実・安定化のために、自助、共助および公助が最も適切に組み合わせられる社会保障のあり方を考察し、表現している。

①財政赤字の拡大や国債の大量発行といった日本の財政が抱える問題を資料から読み取っている。 ①「大きな政府」と「小さな政府」の違いを国民負担率と給付の割合から理解している。 ②財源の確保と配分について、効率と公正、希少性に着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ③受益と負担の選択を視野に、これからの財政のあり方について、主体的に追究しようとしている。
①赤字バス路線の事例を通して、社会資本が多く、経済活動を円滑に進めるために必要な基盤であり、間接的に経済の発展に役立つことを理解している。 ①地方公共団体の経済活動に関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し、情報を適切に選択して活用している。 ②赤字バス路線の事例を通して、国や地方公共団体の経済活動に関わる課題を見だし、効率と公正、希少性などの見方・考え方を働かせて、課題に対する解決策を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共交通手段の確保など、市場の働きに委ねることが難しい問題に着目して、持続可能な地方公共団体および財政のあり方について追究しようとしている。
①景気変動のしくみや日本におけるグローバル化の影響などに着目して、日本経済の特色を理解するとともに、その課題についてさまざまな情報手段を活用して情報を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ②日本経済の発展のために求められることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③節全体を見通しながら、グローバル化やデジタル化が進行するなか、日本経済にみられる課題について、主体的に問題解決しようとしたり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。 ③p. 173「節の問いをまとめよう」について、p. 175「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①景気変動のしくみを、経済成長や失業率などの動きと家計や企業の対応に着目して理解している。 ①景気の安定化のための政府や日本銀行の政策について理解している。 ②景気変動が企業や私たちの生活に与える影響について考えている。 ②極端な景気変動が望ましくない理由を、バブル経済の時期とその崩壊後の経済や社会の出来事を踏まえて考察し、表現している。
①日本の企業が海外進出をする理由と国内への影響を理解している。 ②為替レートの変動が、企業や私たちの生活に与える影響を適切な資料を活用して考察し、表現している。 ②グローバル化の進展がもたらすメリットとデメリットを考察している。
①少子高齢化やグローバル化、デジタル化が日本経済に影響を与えていることを理解している。 ①これからの日本経済の課題について、経済成長率の低下や人口減少などを踏まえて理解している。 ②少子高齢化やグローバル化、デジタル化がこれからの日本経済に与える影響について考察している。 ③労働生産性の向上や人工知能（AI）の活用といったこれからの日本経済の課題について、身近な生活や経済の動きとの関わりから、主体的に調べ、まとめようとしている。

①分業と交換によって私たちの豊かな生活が成り立っていることを理解している。
②交換が経済活動においてどのような役割を果たしているのかを考え、表現している。
②私たちの社会を豊かにするために、経済にはどのような働きがあるのかについて、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、クラゲチャートに書き出している。
③「章の問い」に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、自分の考えを深めようとしている。

①世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。
①地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。
②対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義をもとに、日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
③世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

①国際社会においては、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解し、領土（領海、領空を含む）や国家主権の意味、国際連合のしくみと役割、SDGsの意義などについて、資料から適切に読み取っている。
②SDGsの達成に向けて、どのような立場（主体）がどのように国際協調をしていくべきなのか、対立と合意、協調、持続可能性などの見方・考え方に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
③節全体を見通しながら、世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
③p. 191「節の問いをまとめよう」について、p. 210「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。

①A国について、経済成長が読み取れる場面と環境問題や経済格差などの負の側面が読み取れる場面を指摘し、現実に行き起きている課題と適切に関連づけている。
②A国を事例として、SDGsの実現に向けて、A国や国際社会が抱える課題について考え、表現している。
③「章の問い」を踏まえて本章の見通しをもつとともに、SDGsの目標との関わっている場面を表にまとめ、自分が特に大切だと考える場面を周りの人との意見交換を通して、SDGsの実現に向けて、主体的に社会に関わり、自分ができることを追究しようとしている。

①主権国家は、国際社会において原則的に平等の地位を与えられており、すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解している。 ①国旗と国歌は、それぞれの国のシンボルであり、国際社会では、国旗や国歌を相互に尊重することが大切であることを理解している。 ②国際社会における国際法と国際協調の意義を考察している。
①北方領土、竹島、尖閣諸島など、日本の領土をめぐる動きを歴史的な経緯に着目し、整理してまとめている。 ②領土をめぐる問題はどのようにして解決を図るべきなのかを、主権国家と関連づけて考察し、表現している。
①国際協調と持続可能な開発目標（SDGs）の実現に着目して、国際連合の目的と役割を理解している。 ①国際連合は、集団安全保障の考えの下で国際紛争の解決を図るなど、国際社会の平和と安全を維持する役割を担っていることを理解している。 ②安全保障理事会と常任理事国の拒否権に着目し、国際連合の課題を考察し、表現している。
①SDGsでは、「誰一人取り残さない」ことが理念に掲げられており、そのなかには、先進国自身が取り組むべき目標も含まれていることを理解している。 ②SDGsを達成するために求められる国際協調のあり方について、対立と合意、協調、持続可能性などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③SDGsを達成して「持続可能な社会」を実現していくために、自分ができることを行動しようとしている。
①紛争や核兵器の脅威、地球環境や資源・エネルギーの問題、格差や貧困の解消などの地球的課題に対して、その現状と背景、解決に向けた現在の取り組みを、SDGsとの関わりに着目して理解している。 ②協調、持続可能性などの見方・考え方を働かせて、地球的課題の解決のために、自分自身、日本政府、国際社会のそれぞれができることについて、今と将来という異なる視点で考察、構想し、表現している。 ③節全体の見通しを立てながら、地球的課題の解決に向けて、身近な生活との関わりと持続可能な社会のための支援策に着目し、主体的に社会に関わり、みずからの行動に生かそうとしている。 ③p. 207「節の問いをまとめよう」について、p. 210「節の振り返り」の図を完成させ、「節の問い」の答えを自分なりにまとめている。
①地域紛争や内戦、テロリズムの背景には、領土や資源、民族や宗教、経済格差、不公正な統治などのさまざまな要因があることを理解している。 ①紛争の増加に伴い、難民などの保護を必要とする人が増加していることを理解している。 ②紛争やテロリズムの再発を防止するために、どのような取り組みが必要かを考察し、表現している。
①核抑止の考え方に基づき、大量の核兵器が保有されてきたこと、核軍縮交渉も開始されたが交渉に停滞がみられることを理解している。 ①近年では、サイバー空間を狙った攻撃や、人工知能（AI）をはじめとした先端技術が軍事目的に利用されることなど新たな課題が懸念されていることを理解している。 ②核兵器や大量破壊兵器などの軍縮が進まない現状を踏まえ、軍縮を実現するために、国際協調をどのように進めるかについて考察し、表現している。

①地球環境問題は、私たちの生活だけでなく、将来の世代の生活にも大きな影響を及ぼすことを理解している。 ①地球温暖化の防止に向けて国際的な協調を図ろうとしていることを理解している。 ②発展途上国を含むすべての国が参加するパリ協定が採択されたことを踏まえて、地球環境問題の解決に向けての国際協調のあり方を考察し、適切に表現している。
①世界のエネルギー消費量が増え続けるなか、有限で地球温暖化の原因となる化石燃料から、永続的に使用できる再生可能エネルギーへの転換や新しいエネルギーの開発が求められていることを理解している。 ①日本の発電エネルギーの内訳と、それぞれの発電方法の特徴を理解している。 ②効率と公正、希少性、持続可能性などの見方・考え方を働かせて、資源・エネルギーをめぐる国際情勢や再生可能エネルギーへの転換を踏まえて、今後の日本のエネルギー政策について考察し、表現している。
①地球温暖化を防止するためには、脱炭素社会の実現が不可欠であることを理解している。 ①循環経済への転換やエシカル消費の推進などの日本の取り組みを理解している。 ②脱炭素社会を実現するための国際協調のあり方について考察し、表現している。 ③国際協調の観点から、カーボンニュートラルを目指す日本と国際社会の取り組みについて主体的に調べまとめようとしている。
①格差の現状を読み取り、南北問題や南南問題などの国家間の格差、また各国の国内にも格差があることを理解している。 ①国際機関や地域機構を通じて、多くの国がルールに基づいた国際協調を支えるために努力を続けていることを理解している。 ②格差の広がり、ポピュリズムの台頭などが国際社会の秩序に与える影響を考察し、適切に表現している。
①人口の増加に経済成長が追いついていないことが貧困問題の背景にあること、女性や子ども、高齢者などの社会的に立場の弱い人が貧困の影響を大きく受けること、食料や水資源などの偏りや配分が貧困問題を深刻化していることを理解している。 ①貧困問題の解消に向けて、国際社会では政府開発援助（ODA）、フェアトレード、マイクロクレジットなどさまざまな支援活動が行われていることを理解している。 ②貧困問題の解消に向けて何をすべきか、協調などの見方・考え方を働かせて考察し、表現している。
①日本の外交方針と、日米安全保障条約を基軸にした国際社会との協力や協調について理解している。 ①日本は国際協調を重視する立場から、地域主義に積極的に参加し、政府開発援助（ODA）やJICA海外協力隊の派遣などを通じて世界の発展に平和的に貢献しようと努めてきたことを理解している。 ②国際平和を実現するための日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、これからの日本の安全と防衛および国際貢献のあり方について自分の意見を表現している。 ③「節の問い」に対して、世界平和と人類の福祉の増大を実現するために、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

①さまざまな資料から、日本のエネルギー自給率の現状と日本の発電エネルギーの特徴を読み取っている。 ①日本の電源構成の現状における利点と課題を検証し、図表などにまとめている。 ②各種の発電エネルギーの利点と課題、さまざまな立場の人の主張を多面的・多角的に分析し、それらの妥当性を判断するとともに、2030年度の政府案も踏まえて、自分が適切だと考える2040年の電源構成案を作成している。 ③エネルギーの将来を自身の問題としてとらえ、効率と公正、希少性、協調、持続可能性などの視点から、エネルギーの安定供給のあり方について追究し、主体的に社会に参画しようとしている。
①国際社会の特徴を国内との違いを踏まえて理解している。 ②自分が特に大切だと考える場面の課題を解決するために、どのような支援や対策が必要か、表に示された四つの視点から考えている。 ②世界平和と人類の福祉の増大を実現するために、日本政府や自分に何ができるのかについて、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などの見方・考え方を働かせて多面的に考察し、表にまとめている。 ③「章の問い」に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、自分の考えを深めようとしている。
①よりよい社会を築いていくために解決すべき課題と、その課題を探究するための方法について理解し、その知識を身につけているとともに、持続可能な社会を形成していくために解決すべき課題に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。 ②社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。 ③よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
①よりよい社会を形成するために解決すべき課題と、その課題を探究するための方法について理解し、その知識を身につけている。 ③よりよい社会に対する関心を高め、それを形成するために解決すべき課題を意欲的に探究し、自分の考えをまとめている。
①解決すべき課題に関するさまざまな資料について、適切な方法で収集している。 ①解決すべき課題に必要な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
②まとめた資料をもとに、課題の解決策について、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ②まとめた解決策に対して、周りの人と意見交換をすることを通して、よりよい内容に修正している。

②課題の解決策について、多面的・多角的に考察、構想し、根拠をもってレポートにまとめている。

②課題の解決策について、他者が理解できるように文章や図表などを用いて表現し、発表することができる。

③他者の発表を聞くことにより、よいより社会づくりに主体的に参画しようとする態度をもつことができる。